

1 研修テーマ

「科学が好きな子どもを育てる」

～主体的に問題解決を行い、学びを深める子の育成～

2 研修テーマについて

本研修会では、SSTA理念、指導要領の改訂、主体的な問題解決の充実の必要性などの理由から、問題解決の過程における「問題づくりの場面（事象提示や教師の問いかけ等）」に焦点を絞った研修主題（テーマ）を設定することにした。本研修会では、指導教諭による模範授業を参観し、そこから得られたヒントをもとにしながら、単元計画を考えたり、教材研究を行ったりすることで、研修を深め、若手教員の授業力向上を目指した。



3 開催日時

2019年6月22日（土）～6月23日（日）

4 開催場所

J A全国教育センター

5 講師

大妻女子大学教授 石井 雅幸 氏



6 実施内容

(1) 開会行事

- ①開式の言葉
- ②支部長あいさつ 濱脇 哲也
- ③SSTA代表理事あいさつ 今井 功様
- ④ソニー教育財団あいさつ 根本 章二様
- ⑤来賓及び講師紹介
- ⑥閉式の言葉

(2) 模範授業・基調提案

①模範授業

千代田区立富士見小学校指導教諭 岩崎泰久「ふりこの動き」
単元の導入において、条件の異なる2つのふりこを提示する。ふりこが一往復する時間がことなることから、ふりこに含まれる条件に着目させる。条件を整理したのち「ふりこが一往復する時間は何によって変わるのだろうか」という問題を作っていく。



②基調提案 東京学芸大学附属大泉小学校 加藤啓介

模範授業を受けて、研修を進めていく上で意識することについて、研修リーダーより基調提案が示された。理科および生活科において、身に付けさせたい力、追究したいと思える問題（課題）設定ができる指導展開について考える。3年生「風とゴムの力の働き」を例に、問題設定の例が示された。単元計画作成の観点を示された。



(3) 班別研修

班別研修は、右表に示す6つの分科会に分けて行った。各研修員に単元の導入についてどのような授業展開が考えられるかを、事前課題として考え、それをもとに話し合いを進める中で、単元計画を創りあげた。各分科会には、助言者を配置し、研修テーマに沿った提案になるよう研修員全員で検討を重ねた。

低学年	ものづくり
小3年	磁石の性質
小4年	もののあたたまり方
小5年	もののとけ方
小6年	水溶液の性質
中学校	植物の体のつくりと働き



(4) 成果発表

成果発表は、どの分科会も、研修テーマに沿った発表がなされ、どの発表も大変活発な意見交換が行われた。



(5) 閉会行事

- ①開式の言葉
- ②支部長あいさつ 濱脇哲也
- ③SSTA代表理事あいさつ 引間和彦様
- ④ソニー教育財団あいさつ 根本章二様
- ⑤参加者代表あいさつ
- ⑥次期開催支部挨拶 若林純様
- ⑦閉式の言葉

6 おわりに

関東ブロックより集まった、大変熱心な若手の先生方のおかげで大変充実した研修会になった。また、2018年度に行なった東日本ブロック特別研修会と併せ、東京支部のメンバーの指導力向上にもつながった。このような研修会が開催できたことに対し、関係各位に感謝申し上げるとともに、ソニー教育財団の皆様には、特段のご支援・ご配慮賜ったことに深く感謝申し上げたい。